

野田市立南部中学校

1 学校の紹介

(1) 学校教育目標

- | | |
|-------------------|---------------|
| 「知性と活力に満ちた南中生の育成」 | ～愛情・協働・自立・貢献～ |
| (1) 意欲的に学ぶ生徒 | |
| (2) 仲間を大切にする生徒 | |
| (3) 健康増進を図る生徒 | |

(2) 読書活動に関する目標

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・読書に親しむ姿勢を大切にし、図書から得られた様々な体験から豊かな心を育む。・調べることのできる図書室として、資料や蔵書の質的充実を図る。・効果的に資料を活用し、主体的に学ぶ生徒を育てる。 |
|--|

(3) 学校環境と地域の概要

野田市の最南端に位置する本校は、昭和22年野田市立梅郷中学校として開校し、昭和25年に現在の野田市立南部中学校に改名して、創立74年目の現在に至っている。生徒総数847名、市内の中学校で一番規模の大きい学校である。

最寄り駅から徒歩10分、閑静な住宅地にあるが、学校周辺は緑も豊富な場所にある。特に開校当時の名前にもあるように梅の木が豊富で、収穫をした梅での梅干し作りを地域女性会の方の協力を得て毎年行っている。

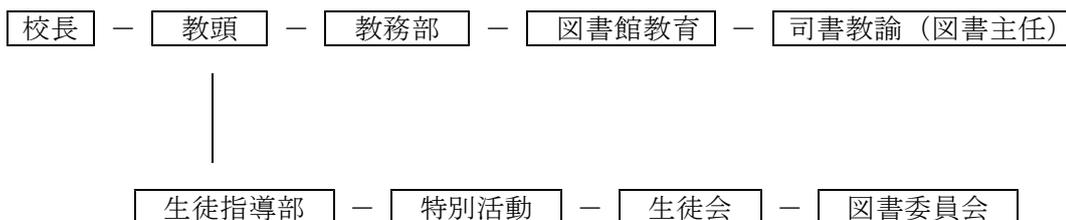
地域的な行事も多く、女性会や地域支援員はもちろん、図書ボランティア等、地域の方々の御協力により、学校教育活動を充実させることができている。

2 自校の図書館の現状

図書館の開館時間は、昼休みの15分間のみであるため、読みたい本を探すというより、読みたい本が明確でないと利用しにくい現状がある。そのため、全校生徒の中で本を借りるという目的で図書室を訪れる生徒は限られてしまっている。国語の授業の中で、長期休みの前に各クラス1時間の授業時間を使い図書室での読書の時間や、貸出しをすることで生徒一人ひとりが図書室の本を手にはできている。少しでも多くの生徒の手に本が渡るよう、2階の中央通路やホールに一部図書室の本を移動し、簡易図書室のような形で特別な手続きなしで借りられるようになっている。

3 司書教諭及び図書主任等の教員の取組

(1) 校内組織と主な役割



司書教諭を含めて、各学年1名が図書館教育を担当している。司書教諭は、学校図書館使用について他の職員との連絡調整を行う。また、図書委員会の活動も並行して行い、貸出しや委員会活動の企画運営に携わっている。蔵書管理や点検、昼休みの貸出し業務においては、委員会の生徒とともに、地域の図書ボランティアの方々の協力を得て行っている。その他、図書室内の環境整備、購入する図書の選書も仕事の一つである。

(2) 生徒や教員に対する支援

ア 学校図書館の運営に関すること

(ア) 学校図書館利用のガイダンス

1年生を対象に、入学式の直後に国語科の授業の一環として、図書室の利用方法、貸出しや返却方法について、図書の配置や検索方法についてのガイダンスを行う。

(イ) 図書館の環境整備

季節に応じた掲示物や、おススメの図書など、コーナーを作って展示している。新刊本については、手に取りやすいように入口付近の目立つ場所に配架している。

(ウ) 学校図書館コミュニティ「図書こみゅ」

野田市内では、市内小中学校、特別支援学校、市立図書館の蔵書が中央一括管理されており、ネットワークを通じて図書を検索し、貸出しができるシステムがとられている。授業で利用したい図書が、関連図書も含めて生徒数分借り入れが可能である。このシステムにより、集団読書や、授業内での調べ学習で図書を活用することができるようになった。

イ 読書推進活動に関すること

(ア) 読書の時間

本校では、登校してから朝の会が始まる前の10分間と給食配膳時間を利用しての読書活動を行っている。どちらの時間も、静寂な中での読書活動ができています。

(イ) 図書コーナー

学校図書館に加えて図書室に来る時間がとれないこともあり、2階の中央通路とホールに、貸出し手続きを必要としない国語辞典や英和辞典をはじめ、職業調べを行うための本や、文学作品を配架している。教科で使う特有の本(楽器の教則本や手芸関係の本や英語の本など)は、各教科の教材室で管理してもらい、必要に応じて生徒が読めるようにしている。

(ウ) 学級文庫の配置

国語の教科書にある各教材の関連図書をはじめ、英語の本や歴史の本等、各学年の授業内容にあった図書を各学級に配置している。この管理は図書委員が行い、生徒は読みたい本を自由に借りることができる。

ウ 学習等に関する支援

(ア) 教科指導に関すること

・職業関係の調べ学習の支援

1, 2年でのキャリア教育の中で行う職業調べができるよう、職業関係の本が1, 2年の校舎に300冊以上配架されており、一斉の調べ学習も可能である。

・教科単元に関連した図書資料の準備や提供について

国語や社会科に関連する図書は各学級文庫に配置している。また授業で使用する関連本については、市内で一斉の検索をかけ、本年度も「故事成語」と「論語」に関する図書を市内で40冊以上借りることで、一人一人に該当の本が行き渡り、調べ学習に役立てることができた。

(イ) 特別活動に関すること

・図書委員会の指導

月1回の学年委員会と全校委員会、昼休みの15分間が主な活動時間である。コンピュータの立ち上げや片付け、蔵書の整理や管理をするなど図書ボランティアの方々の手を借りながら日々活動している。定期的に図書委員による読書紹介を行い、長期休業前に冊子を作成したり、



紹介文とともに図書を配架している。また、月1回図書室新聞を発行し、図書室や読書案内をすることで情報を共有できるようにしたり、少しでも図書室に足を運んでもらうために、年1回しおりコンテストを開催したりしている。

・校外学習に関する資料の支援

修学旅行のシーズンになると、京都や奈良のガイド映像の入ったDVDや関西地方のガイドブックなどを各学級に配置している。

・学級文庫の設置

国語の教科書に掲載されている関連図書、社会科の歴史漫画、地理歴史公民の資料、英語の辞典や事典等、各学級に25冊程度の学級文庫を常設している。

エ 学校司書や公共図書館との連携

(ア) 学校司書との連携

本校では司書が常勤していないため、司書教諭が選書、購入、廃棄の事務は行っているが、蔵書の整理や管理、配架については図書ボランティアの方々に御協力いただいて成り立っている。



(イ) 公共図書館との連携

市内での学校図書館コミュニティ「図書こみゅ」があるため、使いたい資料は取り寄せが可能である。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・「読書」の時間としての設定は教育課程の中にとれなかった分、朝の会が始まるまでの10分間、給食の配膳時間や休み時間等、一日のちょっとした時間を使って読書に親しむ生徒が増えてきた。
- ・市内の「図書こみゅ」を使用して、生徒一人一人に並行読書や調べるための資料用の本が行き渡ること、課題に対して前向きに取り組んだり、課題の解決方法や理解を深めたりすることができた。
- ・授業の中で図書室を使用する機会が増えたことで、生徒の図書への関心の深さや、学びへの早道が「読書」であることが再認識できた。

(2) 課題

- ・生徒に薦めたい本のリストを作成したり、図書室の使用についてPRする活動や図書の物流システムを使用した図書提供など、まだやれることはたくさんあるので少しでも使いやすい図書室作りを目指していきたい。
- ・実際に目的の図書を「図書こみゅ」で集めてみて、授業で使うものについては、教科書の進度上どうしても使用時期が重なってしまうため、同一系列の本が揃っていても、中学校間での貸し借りが難しい。



図書委員が作成した図書室新聞

第2学年6組 国語科学習指導案（一部抜粋）

指導者 芝崎 成美

1. 単元名 「『論語』を人生の糧とする」 教材名「孔子の言葉」

2. 本時の指導（6／8時間目）

展開例

過程	時配	学習内容と学習活動	○指導・支援 ◇評価	資料
見出す	3分	○課題を把握する。 ○本時の学習の見通しをもつ。	○本時の課題を黒板に提示し、学習の見通しをもてるようにする。	・孔子に関する図書
孔子の言葉からどのようなことが学べるだろうか。				
自分で取り組む	15分	○3・4人グループをつくる。 ○『論語』の言葉で心に響いたものを発表する。 ○発表を通して考えたことをワークシートに記入する。	○活動時間を指示する。 ○机間指導を行い、発表やまとめた考えを評価する。	・ワークシート
広げ深める	10分	○全体で発表を行う。	◇積極的に発表しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)<観察・発表>	
まとめあげる	5分	○学習課題の「孔子の言葉からどのようなことが学べるだろうか。」について自分の意見をまとめる。	◇孔子の言葉から学べること、これからの人生の糧とすることについて自分の言葉でまとめようとしている。(主体的に学習に態度)<観察>	・ワークシート
	7分	○3・4人グループをつくる。	○机間指導を行い、発表やまとめた考えを評価する。	
	7分	○自分の意見を発表する。 ○他の生徒の話を聞き、自分の考えを広げる。		
	3分	○全体で孔子の言葉や考えからどんなことが学べたか発表を行う。 ※相手に伝わるようわかりやすく発表する。	○本時の振り返りを行う。 ○次回の活動を説明し、見通しをもてるようにする。	
	3分	○本時を振り返る。 ○次回の見通しをもつ。		

第1学年5組 国語科学習指導略案

令和元年11月11日

野田市立南部中学校
授業者 泉 由美子

1. 単元名 故事成語物語（私編）
教材名 故事成語－中国の名言－
2. 育成を目指す資質・能力
 - ・古典の中でも独特のリズム感をもつ漢文を音読し、訓読のしかたを知る。
(知識及び技能(3)ア)
 - ・適切な用例に着目し、内容を解釈する力。(思考力、判断力、表現力等C(1)ウ)
 - ・中国の言葉である故事成語が、日本の生活の中でも活用されていることを、身近な用例を使ってまとめるようとする。(主体的に学習に取り組む態度)
3. 本時の目標(5/5)
故事成語が日本の生活の中でも活用されていることを、身近な用例を使って意欲的にまとめようとする。(主体的に学習に取り組む態度)
4. 本時の学習展開

過程	時配	学習内容と学習活動	○指導・支援 ◇評価
導入 (見出す)	2	○前時を振り返り、本時の学習についての見通しを持つ。 故事成語の意味をわかりやすい用例で伝えよう	○学習の見通しを持たせる。
展開 (自分で取り組む)	25	○自分で選択した故事成語の意味が、班員に正しく伝わる身近な用例を考える。	○選択できなかつたり、用例について考えが浮かばない生徒には助言する。 ○なるべく自分の体験から用例を考えるようにさせる。 ◇選択した故事成語の用例を、意欲的に調べたり考えたりしているか。 (主体的に学習に取り組む態度) (ワークシート)
(広げ深める)	10	○小グループ内で作成した用例を紹介しあう。 ○各班で、用例として故事成語の意味が正しく伝わっているか確認し、代表を選ぶ。	○小グループの話し合いの進行方法について知らせる。 ○2つ以上の用例ができたときは、時間が許す限り紹介しあい、その意味や用例について吟味しあう。 ◇用例として適切でわかりやすいという観点で代表を選んでいるか。(主体的に学習に取り組む態度)
まとめ (まとめあげる)	13	○全体で発表する。 ○わかりやすい用例にはどんな工夫があったか発表する。 ○本時の振り返りをする。	○話を聴く姿勢に注意する。 ◇積極的に発表しようとしているか。(主体的に学習に取り組む態度)(観察) ◇友人の発表を聴き、自分の生活と結びつけて考えられたか。(主体的に学習に取り組む態度)(ワークシート) ○自分の用例や友人の発表、「矛盾」の話の構成(「起承転結」)を想起させる。 ○わかりやすい用例を作るための留意点を中心に、わかったこと、気づいたことをまとめさせる。

5. 評価
故事成語の意味をわかりやすい用例を使って正しく伝えることができたか。